

企業団議会予算決算審査委員会会議録

日時 令和4年10月7日(金) 午後3時25分～午後3時55分

会議に付した事件

- ・認定案第1号 令和3年度君津中央病院企業団病院事業会計決算の認定を求めることについて
(質疑)
- ・議案第5号 令和3年度君津中央病院企業団病院事業会計未処分利益剰余金の処分について
(質疑)
- ・報告第1号 令和3年度決算に基づく資金不足比率について
(質疑)

出席者

企業団議会議員

出席議員

石井 勝、渡辺厚子、田中幸子、高橋 明、橋本礼子
福原敏夫、山田重雄、小泉義行、笹生 猛、山下信司
花澤一男

企業団執行部

企業長 田中 正、代表監査委員 在原昌秀、監査委員 磯貝睦美、病院長 海保 隆
事務局長 竹下宗久、事務局次長 佐伯哲朗、庶務課長 國見規之、人事課長 石井利明
医事課長 重信正男、管財課長 相原直樹、財務課長 小柳洋嗣、経営企画課長 中園倫弘
病院長代理兼患者総合支援センター長 畦元亮作、副院長兼学校長 木村博昭、副院長 柳澤真司
分院長 田中治実、医務局長 北村伸哉、医療技術局長 児玉美香、看護局長 金綱はるみ

(午後3時25分開会)

<委員長>

それでは、定例会に引き続き、ご苦労さまでございます。

初めに、出席委員は11名でございます。

定足数に達しておりますので、これより予算決算審査委員会を開会いたします。

当会議では、委員会付託案件であります、認定案第1号、議案第5号、報告第1号の3件を議題といたします。

本日の審査日程は、お手元に印刷配付してございます。その順序に従いまして会議を進めてまいりますので、ご了承願います。

日程第1 議案の審議

日程第1、議案の審議を行います。

それでは、認定案第1号 令和3年度君津中央病院企業団病院事業会計決算の認定を求めることについてを議題といたします。

質疑はございませんか。

小柳財務課長。

<財務課長>

先ほど石井議員からお問合せのありました件につきまして、お答えいたします。

令和3年度のコロナの補助金と、それからその収支状況が分かるものとして、資料ですが、こちらの分厚い資料です、令和3年度君津中央病院企業団決算説明資料になります。定例会別冊4になります。こちらの1ページ目をお願いできますでしょうか。表になっております。令和3年度君津中央病院企業団病院事業損益計算書になります。

損益計算書の一番下に「新型コロナウイルス感染症対応に関する財政支援内訳」を再掲してございます。「本院、学校」で縦の列が1つ、それから「分院事業」で縦の列が、そして「合計」があります。

当年度純損益ですが、12億6,500万円となっております。そして、その下の再掲しているコロナ関連の財政支援でございますが、12億6,100万円となっております。

まず、この差額ですが、447万円でございます。これが、コロナの財政支援を除いたプラマイのプラスになってる部分でございます。

では、これが本業の医業収支の中でどういうふうには作用しているかでございますが、表の右側の説明欄の中ほどより下のほうに、医業収支比率を出してございます。医業収益を医業費用で割ったものでございますが、本院は96.0%となっております。令和3年度でございます。これは令和2年度のときには92.9%でございましたので、プラス3.1ポイントの経営の改善が見られたというところでございます。

説明は以上でございます。

<委員長>

それでは、質問を受けます。

渡辺委員。

<2番 渡辺厚子委員>

それでは、何点かお聞きしたいんですけども、前置きとして、令和3年度の事業のことですので、もしかしたら過去の定例会で説明いただいたことがあることについて、またここで尋ねることになるかもしれないんですけども、その辺はご了承いただきたいと思います。

まず1点目なんですが、提出議案説明資料の38ページ一番下にインシデントレポート管理の徹底についてあります。ここで取組内容と成果についての記載がございまして、このレベル3b以上のアクシデントは24件ということで、この中でレベル5というんでしょうか、死亡事例というのがあれば、お伺いします。

<委員長>

竹下事務局長。

<事務局長>

今のご質問に関してでお答えしますと、死亡事例はございません。

(「分かりました」の声あり)

<委員長>

渡辺委員。

< 2番 渡辺厚子委員 >

失礼しました。それで、あと、様々、数値がありますけれども、これは令和3年度の数値で、過去の令和2年度とか令和元年度の資料等、出てこなかったんですけども、この令和3年度の数値というのは、おおむね例年このような感じなのか、もしくは、ちょっと令和3年度、特別な何か数値で表れているようなことというのはあるのか、教えてください。

< 委員長 >

海保病院長。

< 病院長 >

インシデントレポートの報告件数は、年々増えてきております。それは大体どこの病院でもやってるわけですけども、1ベッド当たり5件かな、だから、うち660床ありますから、本来3,300ぐらいあるといかないところ、いつも、それ、外部の委員から言われるんですけども、できるだけ細かいことでも報告するようにして、このところ、増えてきておりますが、目標まではもうちょっとのところ、もちろん、先ほどおっしゃった死亡事例、レベル5に当たるものはないほうがいいんですけども、細かいインシデントはどんどん報告するように言ってます、普段から。

< 委員長 >

渡辺委員。

< 2番 渡辺厚子委員 >

ヒヤリ・ハットのレベルのものを掌握してということなんだろうと思うんですが、ここで言う、一番下にあります、その他の事例報告212件ということなので、医療行為に関わらないご家族等の、いわゆる苦情といいますか、そういったこと等も含まれるだろうと思うんです。この212件というのは、212人の方がそういう、ちょっとクレームなり何なり、212人の方がと、そういうふうになったのか。もしくはお一人の方で1つ、何て言うんでしょうか一つのご家族のこととかで、何度も何度も、ちょっとご意見というか、ご不満の声があったりだとか……。この212の数字というのは、そのままイコール人数ではないという理解でよろしいのでしょうか。

< 委員長 >

竹下事務局長。

< 事務局長 >

インシデントレポートは、例えば1つの案件に関しても、関わった職員が今例えば、例えば、医師、看護師あるいは医療技術員であれば、1つの案件でも、それぞれから報告するようなことも促していますので、必ずしも1件が1人というふうに限ったものではございません。

(「はい、分かりました」の声あり)

< 委員長 >

よろしいですか。

< 2番 渡辺厚子委員 >

その件はいいです。

< 委員長 >

では、ほかの御質問がありましたら、どなたか。

渡辺委員。

< 2番 渡辺厚子委員 >

恐れ入ります。じゃ、別件でお尋ねいたします。同じ資料の次のページですね、39ページの真ん中

よりちょっと上です。(エ)のアクセス道路の検討業務の委託に関してなんですけれども、これは4市に結果報告をされたということなんですけど、報告はどのタイミングで、年度末なのか、どのタイミングで報告されたのか、まずお尋ねします。

<委員長>

中園経営企画課長。

<経営企画課長>

報告いたしましたのは、令和4年3月に報告をしております。経営改革委員会に参加されている担当部課長のほうに、こちら、報告のほうをさせていただいてます。

<委員長>

渡辺委員。

<2番 渡辺厚子委員>

この業務委託の中には、調査検討業務ということですので、何かアドバイス、調査結果から何がしか見解、コンサルタントの見解も示されてはいるんですよね。

<委員長>

中園経営企画課長。

<経営企画課長>

こちら、整備に係りまして、このコンサルティング会社のほうから候補となる調査結果をいただいております。3か所、候補地という形での報告をいただいております。

<委員長>

渡辺委員。

<2番 渡辺厚子委員>

その後のことなんですけど、これはもしかしたら4市のほうでということなのかもしれないんですけど、この調査結果を踏まえて、この後、この課題についてはどのような形で検討が進んでいくものなのか。もしくは、もう既に今年度、何か協議がされているのか。この課題についての進捗について伺ってよろしいでしょうか。

<委員長>

中園経営企画課長。

<経営企画課長>

現在、これにつきましては、まだ進捗のほう、しておりませんが、今後進めていこうというふうな形は考えております。現時点でまだ4市との協議のほうは行っていない状況です。

<委員長>

渡辺委員。

<2番 渡辺厚子委員>

4市、また警察とも関わってくるかと思うんですけど、これは中央病院のほう为主导して進めていく案件というふうに認識してよろしいんですか。

<委員長>

中園経営企画課長。

<経営企画課長>

こちら、道路建設等になっていくと思いますので、構成4市とも協議しながらという形にはなっていきます。主导がどちらにあるかというところをお聞きになりたいかと思うんですけど、それにつきまして

は、こちらから提案を、報告書のほう、報告を投げて、提出しておりますので、そういったところを含めて、双方で詰めていければと思っております。

(「はい、分かりました」の声あり)

<委員長>

よろしいですか。

ほかに、どなたか。

渡辺委員。

<2番 渡辺厚子委員>

すみません、私ばかりお時間いただいて申し訳ないです、あと2点ほど確認したいんですが。

残りの、もう一点というのは、別冊2のほうの2ページでございます、下のほうにありますけれども、看護学校の卒業生のうち当院に就職されたのが41名いらっしゃるということなんです、この当院に就職された41人の卒業生の方は現在もこちらにお勤めいただいているのか、就職した後でまた本日までで離職された方もいるのかということについて、お伺いしたいと思います。

<委員長>

石井人事課長。

<人事課長>

定例会別冊2の2ページの下のところ、当院に就職した学生さんが41名、このうちの全員勤めているか、あるいは少し退職しているかというご質問でよろしいでしょうか。令和3年度に入職した附属看護学校を卒業した看護師につきましては、ちょっと人数までははっきり分かりませんが、数名は退職をしたというふうに承知しております。

(「分かりました」の声あり)

<委員長>

渡辺委員。

<2番 渡辺厚子委員>

分かりました。いろんな事情があるかと思うんですけども、せっかく入ってきてくれた新人さんは長い間定着してほしいなというような思いでちょっとお尋ねしました。

最後にもう一点なんですが、別冊4の34ページ、委託料のうち、いろいろ項目があるんですが、下のほうに、そうですね、指定代理納付業務について、木更津市が実施しておりますアクアコインについて1月から3月実施されたという、本年1月からの導入ということなんです、これは何件ほどアクアコイン利用されたというのが分かれば、教えていただけますでしょうか。

<委員長>

重信医事課長。

<医事課長>

具体的に3年度中に何件利用があったかということにつきましては、ちょっと今把握してないんですけども、大体1日当たり数件程度しか利用がないのが実情です。5件あるかないかぐらいだと思います。

<委員長>

渡辺委員。

<2番 渡辺厚子委員>

1日数件あれば、それが何日もあれば、結構な数かなと自分は思っているんですが……、ちょっと

その辺を確認したくてお尋ねしました。その辺の数字はまた上半期どんな感じだったのかなというのもお聞きしたかったんですが、掌握されていないようでしたらば、また何か機会を見て教えていただけたらと思います。

以上です。ありがとうございます。

(「はい、分かりました」の声あり)

<委員長>

ほかに。

笹生委員。

<10番 笹生 猛委員>

適切な聞き方かどうか分からないんですが、違ったら、認識を改めていただきたいんですけども、まず、ちょっといろいろ全体的なところを見て、中央病院の立ち位置というのを確認をしたいんですけども、今コロナがあって増収、別ところで医業外の収益があって増収になっている状況になっていんですけども、病院の性質を考えると、患者を選ぶとか、なかなか収益事業に集中するという事は難しいのではないのかなと考えたときに、黒字経営が本当にできていくのかなというふうなところに疑問を持っています。実際に今のコロナのことを考えますと、やはり病院の経営としては難しい分、赤字の状況になってるんじゃないかという理解しますが、やっぱりそういう中でも4市が負担しながら、赤字でも地域の病院としてしっかりと機能していくことになっていくのか、それとも、黒字をしっかりと目指すような病院経営にしていくのかということをお答えできれば、お答えください。

<委員長>

田中企業長。

<企業長>

まず大前提なんですけど、やはり公立病院は、負担金というのが必ず必要になると。負担金の目安は、いろいろあると思いますけれども、一つ、私たちが感じているのは、ほかの千葉県内の他の病院と比べても、我々は若干少ないんじゃないか。それから、総務省の繰出基準の額が大体、全国の公立病院に出ますけれども、その総務省の試算の大体、今、我々は半分以下、半分ぐらいですね、もらっているのは。それで、それだけ少ない額でやっている病院はかなり少ないとは言えると思います。ただ、負担金に関しましては、これはもちろん4市と協議をしていくという前提の下ですけれども、現時点では、我々がやれることは、もうとにかく頑張ってやろうというスタンスです。

もう一つのスタンスは、やはりこの病院は、この4市にとって非常に重要である。患者さんにとっても、あるいは開業の先生方にとっても、我々はもう医療の最後の砦というふうに自負して頑張ろうということで、この病院を何とか存続させたい、あるいはこの機能を取りあえずは維持できるんなら、もう維持しようというつもりでおります。ただ、そこに先ほどの負担金ということで、それが少ないときにどこまで維持できるのか、それが実は私たちもある意味分からないという……。それを2年半前、実はできるだけのことをやって、それでどうしても赤字になる、そういうようなところをきちんと見極めて、その時点でこの病院をどうするんだというのを、我々だけではなくて、もちろん4市の方々と相談する、そういうつもりでいました。

ところが、そこにちょうどコロナが関わってきたんです。コロナが関わってきて、それでいろんな影響、患者数の減とか、あるいは診療を制限せざるを得ない、そのような制限もありました。それで、その見極めがちょうど足踏み状態で、見極められないという状態に。ただ、そういう中でも、我々、やはり経営改善というのには真摯に取り組んでまいりまして、それで赤字幅は、ちょうど平成30年が8、

4億円と、本院ですけれども、かなりの赤字が出たんですが、それから毎年減ってきています。令和2年、3年は、補助金がありますので、当然、黒字にはなったんですが、じゃ、補助金を除いてどうかというのを見てみますと、平成30年のマイナスが8億4,000万円から徐々に減って、令和3年度は、先ほどちょっと話が出ましたけれども、もうほぼ黒字に近い状態ということになっております。

ですから、新型コロナの影響があっても、ある程度努力で少しずつは改善して、そして、ある程度のところまでは来れるんじゃないか。ただ、本当に、もしコロナが収まって、ウィズ・コロナになった、あるいはアフター・コロナになったときに、患者数が前に戻るということはまずあり得ないというふうに我々も思っていますので、そのときに、じゃ、どこまで本当にこの病院の経営状態が維持できるのかというの、そういう意味で本当に実は分からないというのが正直なところです。

ただ、それをぜひ見極めたいんですけれども、どうもコロナの影響がなかなか取れないので、いまだ見極められないという、そういう状態というふうに私は思っております。でも、いずれ、見極めなければいけないということであるかと思えます。ちょっと答えになっているかどうか分かりませんが。

<委員長>

笹生委員、よろしいですか。

ほかに質問。

石井委員。

<1番 石井 勝委員>

二、三、お願いします。

まず、今度新しく玄関先に薬屋さんですか、何かできて、家賃、家賃じゃなくて、地代ですか、地代を納めてもらうと聞いておりますけど、地代は幾らになるんですか。

<委員長>

相原管財課長。

<管財課長>

ただいまのご質問ですが、地代のほうは月額950万円いただいております。

<委員長>

石井委員、よろしいでしょうか。

<1番 石井 勝委員>

そしたら、地代で950万円、薬屋にとっては、やっぱりそれが薬を売ることによって利益が入ると思うんですね。地代は二の次として、当然、そこに行けば、あそこでやれば、恐らく一番売上げが多くなるんじゃないかと思うんですけど、そういうものに対しての賦課はかけないのかどうか、2点目。

<委員長>

中園経営企画課長。

<経営企画課長>

この建設に当たりましては、君津木更津薬剤師会のほうにはお話はもう済んでおりますので、特段、賦課というような形のものはないと考えております。

<委員長>

石井委員。

<1番 石井 勝委員>

要するに、そこを作っても、この病院に入るお金は950万円ですか、と考えていいんですね。

<委員長>

中園経営企画課長。

<経営企画課長>

当院のほうで今回、建物に関しまして、2階、3階部分を借り受けますので、その分の建物を借りる上での賃料が当院から薬局側のほうに来年度発生する形にはなってます。まだ金額は確定していないんですけど、大体50万円プラスアルファというふうな形で、まだ確定はしていません。

<委員長>

石井委員。

<1番 石井 勝委員>

じゃ、次。そうすると、そこからもらうとすると、地代じゃなくもらうんだから、ほかの何軒かありますよね、下にね。何軒かあるやつはフリーなんですかね、要するに。タックスフリーと言っちゃ変だけど、そこからは一文も上がってないということですね。上がってないなら、分かりましたよ。

そうすると、じゃ、一応、この君津中央病院を一つの的にして、あれだけ、ぞろぞろ、ぞろぞろ、薬屋があるんだから、やっぱり建つときに、ある程度の約束をいただいて、歩割りなり何なりをもらうのが普通の商売じゃないかと思うんですけど。いいですよ、これは。そのうち考えておいてください。

次、いいですね。

<委員長>

石井委員。

<1番 石井 勝委員>

二十四、五年前にこの病院を建てるときに、確かに関係者の一人として、ここに議員として出てたんですけど、そのときは30年経ったら、もうここは黒字になると、そういうことで僕は賛成したんですよ、建つことに対して。だけど、今現在、こう二十何年たって見ると、二十何年ですか、たってみると、黒字の目安は、今、田中先生が言われたように、努力して一生懸命やられてるからいいと思うんですけど、いろいろなコロナが入ってきたり、いろんなプラスの面があって、というのはおかしいんですけど、コロナが本当に助けになって、一応、今年、去年とですか、少し赤字が解消されたという面が強いのじゃないかと思うんですよ。だから、これでコロナが入らなくなった、今度は2年先、3年先のことは、やっぱりみんなで組み立てていかないといけないんじゃないかと思うんですよ。

だから、ひとつ2年先、3年先にはこうなるということを、決算報告じゃなく、それもこの資料に上げていただきたい、ぜひ。これだけ人が集まったんだから、みんなで考えて、2年先には、じゃ、3億円残りますよと言ったら、より僕は安心するし、市のほうも余計安心するんじゃないかと思うもんですから。決算だけじゃなく、やっぱり今後の見通しを、この5か年計画とかなんかじゃなくて、ちゃんと、僕は目に見える形で示していただきたいと思います。

それから、細かいことですけど、麻酔が入って、六十何%ですか、手術場、稼働し出して。確かに、ここはやっぱり手術をしなければ、どこもそんなにはもうからないなんて、いけないけど、もうからないんですよ。やっぱり僕らも手術をすることで結構な別の、そういう収入を得るもんですから、ひとつ麻酔科については、1人入れたから安心じゃなく、大体、今まで入らなかったのが突然入るということ自体がどうしたものかと非常に不思議に思うもんですからね、ひとつこれに手を緩めずに、やっぱり手術場は麻酔科がいなきゃ商売にならないんだと、そのぐらいのつもりでやってみてくださいな。要望でいいですよ。

以上、何点かありますけど、みんな要望でいいですから。

<委員長>

じゃ、石井委員、要望ということで。

<1番 石井 勝委員>

ひとつ考えてください。

<委員長>

はい、分かりました。

ほかにどなたかありますか、いいですか。

(「なし」の声あり)

よろしいでしょうか。

続きまして、議案第5号 令和3年度君津中央病院企業団病院事業会計未処分利益剰余金の処分についてを議題とします。

質疑はございませんか。

(「なし」の声あり)

はい。

続きまして、報告第1号 令和3年度決算に基づく資金不足比率についてを議題とします。

質疑はございませんか。

(「なし」の声あり)

はい。

以上で当審査委員会に付託されました案件の審査は全て終了いたしました。

これにて予算決算審査委員会を閉会いたします。

大変ご苦労さまでした。

(午後3時55分閉会)